
大乱逃走中 ダイラントウソウチュウ

死神魔姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大乱逃走中 ダイラントウソウチュウ

【Zコード】

Z6927X

【作者名】

死神魔姫

【あらすじ】

なんと今回作者が書く逃走中はスマブラ×逃走中ではなく、大乱闘×逃走中！！

作者+マスハン+クレハン+ ガニッシュヨンを出していく・その+

とは！？

マリオ「うおー！ハンターが**して来る！！」

ルイージ「で、でも僕たちも**できるよー！」

マリオ「そりいえばそうだったな・・・」

れあ＊＊に入る言葉とは？それは見てからのお楽しみ…！…

始まりです・・・（前書き）

死神魔姫こと作者です！小説書くのは初めてなのでおかしい所もいつぱいあると思うので、できるだけがんばります！では、スタートです！

始まりです・・・

作者「よじつ…逃走中はじめるぜーー。」

マリオ「めんどう・・・」

作者「いや、ちょっと、までよー！君の第一声めんどうって・・・」

マリオ「だつてさー、これ作者が初めて書く小説だろ。絶対ためし書きだろ。」

作者「ち、ちがうよー。」

マリオ「絶対ためし書きだつて。だつて作者の友達に催促されて書いたんだろうー？」

スマブラメンバーたち「そーだそーだ！」

作者「や、やめてくれーー悲しくなつちゅうじゅなにかー！」

ルイージ「でも兄さん。この小説のタイトル気にならない？」

マリオ「ああ、あの大乱つて入つている」とか?」

ルイージ「そりゃう、あの部分も気になるし、作者もかわいそうだからやつてあげない?」

マリオ「急にかーまあ金が入るなら・・・」

作者「もちろん…あげますとも…（マスハンのポケットマネーで
すけどね）」

マリオ「じゃあ仕方がない。やつてやるか！」

作者「ではでは、登場人物設定とルールを次にかくぜ！」

始まりです・・・（後書き）

ふう・・・やっと1話書き終わった・・・
実はこれ書くのに1時間もかかったんですよね・・・
あああ、もっと早く速度を速くしないと・・・

逃走者紹介1（前書き）

やつと2話目か・・・
本当に終わらせれつかなこれ・・・
まあいい！がんばるぜ！

逃走者紹介1

逃走者たち1

マリオ

いつもクッパにさらわれたピーチをルイージと一緒に助けている。
しかしマリオによれば、ルイージが居なくても助けられるとか。
今回は、逃走を成功させて賞金でグアムに行くとか。

ルイージ

皆からネガティブキャラっぽいと言われている。
足はそこそこ速いのだが、運が作者が引くぐらい無い。
実は作者はマリオよりルイージの方が好き。

ピーチ

キノコ王国のお姫様。

いつもいつもクッパにさらわれては、マリオとルイージに助けられている。
数少ない女子の逃走者。

クッパ

毎回毎回ピーチをさらっては、マリオとルイージにボコられていた。
この前なんかはさう前にピーチにボコられたらしい。
足の速さはネスとリュカと同じくらい。

ドンキー コング

バナナが大好きな森のヒーロー。
お供にディディーコングを連れている。
体の大きさの割に足は速い。

ディディーコング

赤い帽子とベストがトレーデマークのチンパンジー。
力自慢のドンキーに対しスピードと軽さが売り。
足はペカチュウより少し遅いぐらい。

ヨッシー

マリオとルイージのペット的な存在。
カービーとは大食い仲間。

足はあまり早くはないが卵に入ればそうとう速い。

ワリオ

いつもワルイージと一緒に手を組んではマリオたちの邪魔をする。
実は自分の会社を持つている。

足は結構遅い。

リンク

ゼルダとは戦い中の剣士。

いろいろな武器を持つていてとくにマスターソードがお気に入り。
足は以外に遅め。

ゼルダ／シーク

魔法を使い二人の姿を扱うことができる。

今回は両方の姿を使うらしい。

足はシークの時はトップを争つ速さ。

ガノンドロフ

見た目は顔の怖いおじさん。
しかし本当はリンクの宿敵。

足は見た目の通り鈍足。

トウーンリンク

一言でいうと、一回り小さくなつたリンク。
いつもガノンに小僧といわれている。
足はリンクよりも確実に早い。

ゼロスーシサムス

今回はパワードスーツが邪魔だつたらしいので脱いできたらしい。
職業は賞金稼ぎ。

足はシークと同じくらい。

ピット

すこく生意気な天使。

今回はマスハンの能力で長い間飛べるようにしてもらつた。
足は普通だが、空中での速さはピカイチ。

アイスクライマー

ポポとナナ一人で逃走する一風変わつた逃走者。
ポポかななどちらかが捕まれば逃走失敗となる。
足の速さは微妙。

ロボット

すべて片言でしゃべるロボット。

Mr.ゲーム&ウォッチとは片言仲間。

足の速さは超平凡。

カービー

ププブランドを救つた英雄。

しかし本人はそんな自覚はない。

こつちもマスハンの力でたくさん飛べる。

逃走者紹介1（後書き）

よしつ！これで逃走者紹介前半終わり！

次は逃走者紹介2！

逃走者紹介2（前書き）

今週の月曜日、女友達と一緒にユニークに行くぜい！
というか更新の割合が一週間に一回になつていて・・・
せめて一週間に2話は書かないとやばいな。
ともかく3話目スタートオ！

逃走者紹介2

メタナイト

一頭身なのにかつこいいッププランダの戦士。
関係ないが作者はメタさんの使い手。
足はシークよりちょっと遅い。

デデデ

巨大なハンマーを持つ、プブプランダの大王。
容姿は腹巻をまいた青いペンギン。
足は、はつきり言って鈍い。

ピクミン&オリマー

ピクミンが居ないとほとんどただの人。
今回は5匹まで連れ歩きOK。
足は平均的。

フォックス

やとわれ遊撃隊、スターフォックスのリーダー。
ウルフとは仲が悪い。
足はとっても速い。

ファルコ

スターフォックスの一員。

あだ名は焼き鳥。

足は速そうに見えて実はあまり速くない。

ウルフ

いつもいつもフォックスたちと喧嘩をしている。

特にファルコとはとても仲が悪い。
こちらもイメージほど素早くない。

キャプテン・ファルコン
レーサーでもあり、一流の賞金稼ぎ。
仲間同士だからかサムスとは仲がいい。
足は2番目に速い。

ピカチュウ

全ポケモンシリーズに登場する人気ポケモン。
一応性別は らしい。
隠れるのも、逃げるのも得意。

ポケモントレーナー（リザードン）

今回はポケトレは参加せず、手持ちの代表としてリザードンが選ばれた。
言葉はマスハングビトにかしてくれるらしい。
足は巨漢の割に速い。

ルカリオ

傷つくほどに強くなる逆境ファイター。
見た目は青い犬。

足の速さは速くもなく遅くもない。

プリン

歌っては誰かを眠らせる困った子。
今回はうたうは使用禁止。
足はダントツビリ。

マルス

顔のかわいい腹黒王子。

ピットとは仲が悪い。

足は多分早い。

アイク

グレイル傭兵団の団員。

お肉が好きなどかわいい所もある。

賞金の使い道は「お肉！」らしい。

ネス

とつても黒い（中身が）12歳の少年。

特におっさんグループに黒い発言をしまくる。

この前もネスによつてガノンが落ち込んでいたらしい。

リュカ

先輩を習つて（？）黒くなつた子。

しかしポケトレには絶対に黒い発言をしない。

先日もリュカによつてスネークが心に大きなけがを負つたらしい。

Mr.ゲーム&ウォッチ

ロボットとは片言仲間。

任天堂の一一番の古株。

足の速さは謎。

スネーク

作者の友達の中でのスネークのあだ名は「すね毛」（スネークファンの人すんません）

この前仕掛けおいた地雷にリュカがはまりボコられた。
足は結構遅い。

ソニック

音速で走るハリネズミ。

言葉の中にときどき英語が混じる。

足はダントツ一位。

逃走者紹介2（後書き）

やつと書き終わった・・・
次はルール説明だぜ！

ルール説明つー！（前書き）

何とも不吉な字・・・4つてなんか不吉な感じがする気が・・・
まあ俺の気のせいか！今回もポジティブに！！
(というか作者、！マーク好きだな)

ルール説明っ!!

マスハン「よーし全員集まつたな。」

マリオ「なーなー早くルール説明しろよコノヤロー。」

マスハン「神戸そんな口をあくなーま、まあいい。よしつ、クレハン出番だ!」

クレハン「なんで俺に押し付ける!お前がやれ!」

マスハン「しかたがないな・・・じゃ簡単にルール説明をするぞ。まあ簡単に言えば攻撃できる感じになつた逃走中だと考えてくれればいい。」

ネス「おーおっさん。そんな説明でわかると頷うつ?」

マスハン「スマセン・・・」

クレハン「仕方ねーなー。俺が説明してやる。まず今回のハンターは特別製だ!」

ルイージ「どこの部分が?」

クレハン「一つ曰は軟な攻撃じや場外をわせられないようにしてる。」

ヨッシー「いや、軟な攻撃とか以前に攻撃できないじゃないですか。」

「

クレハン「いや、そこがこの逃走中の特徴だ。なんとハンターに攻撃してもいい特別ルールを作った！」

全員「おおー！」

クレハン「しかしそんなんじゅみんな逃走成功しちまつからな。もう一つハンターには最大の特徴がある！－！」

デデデ「それはどんな特徴ゾイ？」

クレハン「それはな・・・攻撃すると攻撃した奴の長所と攻撃した技をコピーされちまうんだ。」

ナナ「それどーゆー意味？」

クレハン「たとえばソニックが攻撃したとする。そうするとハンターの足がソニック並になるんだ。

クッパ「そんな・・・じゅ、じゅあワガハイが攻撃したら？」

クレハン「力が強くなつてもちろん攻撃した技もコピーする。」

クッパ「そ、そな・・・」

ピーチ「でも攻撃したら少しば時間は稼げるんでしょう？」

クレハン「ああ。まあハンターにとつてもだがな。」

ゼルダ「えつ！じゃあハンターも逃げるのを妨害してくるんですか

！？」「

クレハン「もちろんだ。」

リンク「とにかくはむやみに攻撃するのも少し考えようがありま
すね・・・」

クレハン「ま、やつこついとだな。あとはロッパーした技と能力は特
別なことがない限りロッパーしたままになる。」

プリン「技が使えることが有利なのか不利なのかわからぬでしゅ
・・・」

ピックト「じゃあ僕たちも飛べるんですかー？」

クレハン「もちろん。だが背中にジエットをつけたハンターも用意
しておいたので油断は禁物だ。」

メタナイト「こちらも使いどりが難しいな・・・」

カービー「ほんとだー。走つて追つかけてくるハンターに気を取ら
れて空に逃げた途端捕まっちゃつかもしないボヨ・・・」

クレハン「説明はこの位にしておいて、次はオープニングゲームだ。

」

ルイージ「絶対逃げ切る！（オープニングゲームで）」

ルール説明つ！！（後書き）

次やつと逃走が始まる・・・
ここまで來るのに相当時間かかったな・・・
後宣伝！ゆうらが書いてる小説も見てやってくれい！

オープニングゲームウウウウ―――――― < ; ; > ;

クレハン「よーし、オープニングゲーム始めるぞー。」

ウォッチ「ト「ロロテナンテマスハンドハナク、クレハンガシキツテ
イルノデスカ?」

クレハン「んーなんかこの前チ○ルチヨコを3箱ぐらい買って、ロ
ードオブザリ○グをツ○ヤで全巻借りてたから多分チ○ル食いなが
ら見てんじやねー?さつきどつかいつたし。」

マリオ「あのくそ神、何仕事サボってるんだよー!」

クレハン「あーもー、ともかく始めるぞー!」

ピット「質問なんですかー?あと一秒
何円ですかー?」

クレハン「今から教えるから黙れ。今回の逃走時間は180分。
一秒300円だ。」

ロボット「トイウコトハ合計324万円トイウコトデスネ。」

クレハン「ま、そういうことだな。あとはステージだが5つの国に
分かれていて北にある国は、天馬ノ国、東にある国が、大蛇ノ国、
西にある国は、一角獣ノ国、南にある国は、飛龍ノ国、そして中央
にある国、まあ一番大きい国だがそこが巨龍ノ国だ。」

メタナイト「どうやって移動をするのだ?」

クレハン「皿龍ノ国からすぐての国へは橋がつながつてゐる。あとそのほかの国は、隣同士の国としかつながつていない。あ、それと空飛べる奴はつながつてない国同士を行き来するとその時点で失格となるから注意しろよ。」

カービー「わかつたボヨー！」

クレハン「せうだ、忘れるところだつたがこれを全員に渡しておくれぞ。」

ルイージ「これは……地図と皿主ロイン一枚か……」

クレハン「あと迷うことはないだらうが、国にはその国の領前に入つている怪物の銅像が置いてあるからそれを印にしてくれ。」

全員「はーい」

クレハン「じゃあほんとにおープニングゲーム始めるだ。まずくじを引け。」

まあ一番はいつたい……？

ルイージ「僕だね。」

マリオ「やばい！みんな逃げる体制を作れ！…」

ルイージ「ひどこよ兄さん…！絶対僕が引くとは限らないでしょ…！」

マリオ「絶対引く！」

ルイージ「もうここのよ！絶対引かないぞ！」

クレハンド「ちょ、ちょっと待て。まだ説明をしていない…というかまだ用意してない…！」

マリオ「えー。はやくしろよ。」

クレハンド「あーわかつたよー！」鎖があるから引け！はずれ引いた
らハンターが三人出でくる！そんだけだ！」

マリオ「いつもとおんなじだな。」

さあルイージの挑戦です！

ルイージ「よしつ。29番引くつ！」

ルイージの運命は…？

じゃらり…・・・

セーフ！

ルイージ「やつたーーじゃあみんな頑張ってねー。

マリオ「うおー、なんで、なんでルイージが引かないんだーー。」

ピーチ「これでこのケーキとあんぱんは私のものね。」

ビートやらルイージが引くか引かないかで賭け事をしてた模様・・・

次はいつたい誰が引く？

次回へ続く・・・

なんと畠さんのおかげでもう少しでアクセス数が500になります！
これからもがんばっていぐぜー！

オープニングゲームウウウウ！－！－！
<...>-(前書き)

どうも死神です。俺のプロフィール見ててくれた人は知つてはいるかと思うけど俺の名前は『しげみ』ではなく『しがみ』ですよ！まあそんなことはともかく6話目にゴー！！！

さあはずれを引く候補ダントツ1位だったルイージがあたりを引き
皆は焦り始め・・・

マルス「ま、まあ」の王子がはずれをひくわけないよ・・・」

マルスか一番目のようにだ・・・

「アイケ、ひくんじゃなしか？」

マルスーひかにょ!! アイケ僕は絶対にひかにょ!!

ノイズ・モード

マリス なんて笑うんだ

マリオ「おまえぎすいでなしみたいだけど前のルイーシみたいにな
つてんぞ！！あはははは！」

マルス「う、うるさい！絶対引かない！よし一番を引く！」

じめに

マルス「うわ……なんか出てきた……なになに、（これをだれか
になげるとそいつの足が遅くなるぞ！ついでに逃走者にも投げられ
るぞ！）……か、これどう見ても蜘蛛の巣だよね？まあいいやこ
れで……ふふふ……」

マルス蜘蛛の巣ゲット……！

マルス「じゃあねー」

マルスは向こうの方へと消えていった……

すね毛「次はだれだ？って誰がすね毛だ！？」

作者「『めん』『めんタイプ』『たんだよ』（嘘）」

ソニック「次は俺だぜ！……！」

逃走成功候補一位のソニック、何番を引くのか！？

ソニック「よしつー、7番を引くぜ！」

ソニックの運命は……？

ぐわしゃああん！……！

ハンターが放出された！！

ソニック「オーマイガット……はずれかよ！でも俺がいたら迷惑になる！だから捕まつてやるぜ！」

ピ―――

ポンッ

クレハソ「ソニック逃走失敗だぜー！」

ピロコロン

ネス「つるさいなもう一なになに・・・ソニック確保・・・ソニックさん捕まつたんだ・・・珍しいな・・・」

ピーチ「ついに逃走開始しましたわね。」

ピカチュウ「隠れるといひがしあいつと。」

プリン「ベンチの下なら隠れないでしゅかね？」

カービー「てんまのくじくくポコー。」

スネーク「巨龍ノ国が一番広いようだがあえて飛龍ノ国に行くとするか・・・」

それぞれ隠れ場所を見つけたり移動したりしている模様・・・
一方監視塔では・・・

作者「ついに始まったなー逃走中。俺的にはおじさんグループの中の誰かが引くと思ってたんだけどなー、予想外れたぜ。」

クレハン「まあいいんじゃないのか?それより一つ目のミッション、どうするんだ?」

作者「それなら助つ人を呼んでるぜ?ま、俺の友達だよ。」

クレハン「ビンだけミッション作るの面倒なんだよーまあいいか。」

ついに次回逃走劇が始まる!

皆さん感想お願いします。
ではさうばー。

第一 ハシラコ・・・「紅茶とパークーが好きですか?」(前書き)

今回の題名全然意味わかりませんよね?これは今回のハシラコに
関係していることなんで全然気にしなくていいです。
あと出来れば感想ください。お願いします。

第一 リンク・・・「紅茶とバー ルーラーがお好きですか？」

さあついに始まつたゲーム、生き残れる逃走者はいつたい？

マリオ「あー暇だな。逃走する場所広い割にはハンター3体つて。絶対生き残れるじゃん。」

余裕のマリオ、しかしこの逃走場所の広さがあとあと問題に・・・

リンク「開始から10分たつたけど全然ハンターこないな。これなら生き残れるかも・・・」

しかしそんな余裕のリンクの前に・・・

リンク「うわっハンター！？」

気を抜いていたリンク、攻撃も加えられずに・・・

ピ――――――

ぽんつ

リンク確保！

リンク「気抜いてたからか・・・」

ピロコロコンツ

メタナイト「ミシ シヨンか? なになに(リンク確保)・・・か。これだけ広いところに開始十分で捕まるとはそつとつ氣を抜いていたのだな。」

カービー「空っぽいんだろ? 今多分お空のハンターいないみたいだしへてみるボヨ!」

伝えるの忘れてましたがハンター3体ところのは陸2、空1といふことです。

カービー「・・・普通に空だ・・・ボヨ・・・」

その頃監視塔では・・・

クレハン「そもそもミシ シヨン出した方がいいんじやないか?」

作者「ちょっと待て、今ここになんだ!」

クレハン「何ゲームしてんだよーほんとびりあるんだよ・・・」

ぽんぽん

クレハン「だれだ? いま俺の肩たたいたやつ?」

(クレハンの肩っぽいなんだ?)

？？？「紅茶と『コーヒー』どちらがお好きですか？」

クレハン「えつへ？ビ、どっちかとこいつ『コーヒー』・・・」

？？？「かしりまつました！」

作者「よしお！クリアだ！で、クレハン要件って何？」

クレハン「聞いてなかつたのかよー。//シシヨンのことだよー。」

作者「ああそれだつたら助つ人を呼んだはずなんだが・・・見なかつたか？」

クレハン「そいいえばさつきなんか紅茶か『コーヒー』がビウたりいつたらつて聞いてきたやつがいたけどそいつのことか？」

作者「たぶんそれだ・・・ビ」行つたか知つてるか？」

？？？「ただ今持つてきました！」

作者「あうーモカどこ行つてたんだ？」

モカ「クレイジーハンドさんの『コーヒー』を注ぎに行つてました！どうぞクレイジーハンドさん！」

クレハン「わい！…お、おうアリガトウ・・・」

作者「モカ、ミシシッポン手當つてほじりんだけじいこか？」

モカ「はい、いこですよ。かわりにそのあと逃走者の監視とのもと

へ行つて観察してきてもよいですか?」

作者「ああ、いいぜ。じゃあこれをみんなに送つてくれないか?」

モカ「かしこまりました!」

ピッピッピー、送信カンリョウシマシタ。

モカ「できました!」

作者「ありがとうございます!」のリッシュョンを逃走場所で見張つてお
いてくれ。じゃ、俺は寝る・・・」

モカ「判りました!」

クレハン「居眠りすんじゃねー!しかたねえな。そこのモカとか
いやつにに乗つたら向こうに転送されつから。」

モカ「では行つてまいります!」

逃走場所へと戻る・・・

ピロロン!

クッパ「なに」とだ!また捕獲なのか?」

メール・・・(どうも死神くんの代わりに来たモカというものです
!これからミッションの内容を言いますので聞いていてください!)

残り時間140分になるとハンターたちが1分ごとに分裂を始めます。それを阻止するためには、ハンターに攻撃を2回当てないといけません。あと同じハンターを同じ逃走者が攻撃すると無効になりますので、「注意ください。攻撃を一回当てたハンターは分裂しなくなります。もちろん攻撃をすればハンターは能力をコピーしてきますし、捕獲しようともします。それと広いステージではハンターが見つけられないものである便利な道具を5個宝箱に入れていろいろな場所に置いたので見つけた時は使ってくださいね。その道具の電源は残り時間140分になると強制的に落ちますのでそこらへんは覚えておいてください。ではお知らせは終了です！皆さん頑張ってくださいね！」

クッパ「なにー！ハンターが分裂だとーで、では残り時間145分になつたらハンターの数は・・・56体だとーこれは何とか阻止せねば！」

シーク「これはやばいね。ハンターが5分で53体増えるというこことだよね。行くとするか・・・」

ピカチュウ「うー」とたら見つかりそうだしハンターが通りかかったら攻撃しようかな・・・」

ルイージ「やばいやばいやばいーどーしょーーこれは行くしかないよね？」

いつもミッションに行かない人たちもいくよっだ・・・

残り逃走者・・・35人

ミッション残り時間・・・20分

ハンターの分裂を止めないとせざるを得ぬのか？

第一ミッション・・・「紅茶とパークーニングがお好きですか?」(後書き)

モカというのは俺のリア友です。小説では女ですが、現実は違うかもしませんねー。俺は知っていますよ?といふことで次回で第一ミッションの結果出ます。多分・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6927x/>

大乱逃走中 ダイラントウソウチュウ

2011年11月21日12時05分発行